

## 平成 26 年度第 2 回定住自立圏共生ビジョン懇談会議事録（要旨）

日時：平成 26 年 7 月 14 日（月） 13:30～15:00

場所：函館市本庁舎 8 階第 1 会議室

（13:30 開会）

### <委員挨拶>

変更となった七飯町本間委員および厚沢部町今泉委員より挨拶。

### <議 事>

（南部座長）本日の目標は原案確定ということだが、今後を見据えて遠慮無く意見を欲しい。皆様それぞれ専門の立場で出席されており、現場もお分かりになるが故に、実現可能性などを考えた場合、意見を出しにくいということも理解出来るが、この会はそのを遠慮せずにどんどん意見を出していただきたいと考えているので、よろしく願いしたい。

それでは議題 1 について事務局より説明願いたい。

（事務局） 資料に基づき説明

（南部座長）各委員より意見をいただきたい。

（松本委員）定住自立圏共生ビジョンの目的だが、関係市町が連携して行う取り組みをアップしていこうということになっている。函館市が事務局になり、函館市と一緒に取り組むという事業を対象にしている。これからの人口減少や高齢化を考えれば、インフラが追いつかないという状況が考えられる。例えば、せたな町で行っているゴミの共同処理、これも一つの事業と言えるのではないか。函館市を中心とするばかりではなく、各地域毎の取組もサブの中核的なまとまりがあっても良いのではないかと感じる。

圏域の将来像として、社会資本整備を各自治体で効率的に扱うというような、我が町に必ず何かが無ければならないということではなく、一つの機能を共有していくという考え方が柱に出てくると面白いのではないかと思った。

そういう意味で、機能ごとのサブ圏域という考え方が、近隣市町村の機能強化にもつながるのではないか。そういう話し合いをもっと進めていってはどうか。どうしても最初に犠牲になるのが、お金にならないスポーツなどで、その施設の維持に困ることが多い。体育館はこちらの町というように、役割を分担して、連携して取り組むことが必要だと思う。定住自立圏は市町村の枠を超えた取組であるので、そのあたりの表現を加えると

いう視点も大事なのではないか。前回の議論になってしまうが、工夫の余地はあるのではないか。

また、事業シートについて、少し気になるのは、医療と交通ネットワーク。医療はドクターヘリが中心になると思うが、ヘリだけではなく、普段の1次医療圏を利用する方のセカンドオピニオンを得るための手段として、地上の輸送（移動）手段についても確保する必要もあるのではないか。

交通ネットワークにおいて、2次交通の取組が必要となっているが、新幹線開業によって、幹は出来るものの、末端までの交通網が無い。どうすれば、函館まで出て行けるのかという、地域に住む人が目的に応じて、容易に移動できるという点も考慮すべきと考える。

2次交通も大事だが、2次交通に乗せるための仕組みも大事だと思う。予算の問題もあろうかと思うが、提言として盛り込んでもいいような内容だと思う。市町や振興局の方々にとっても仕事のしやすいビジョンにしていくべき。

（南部座長）今のご意見を要約させていただくと、1点目は、中心市とそれ以外というつながりのほかに、周辺市町相互のつながりを考えたいということ、2点目は、空と陸というセット、今、事業として上がっていることをさらに活かしたり、あるいはそこに暮らしている人々に近づけるために仕組みを作っていくということ、3点目については交通ネットワークという視点でお話いただいたと思う。それを踏まえてビジョンの中で提言していくべきと。

（松本委員）そういう視点があれば、思い切った施策も取れると考えるが、もちろん、予算が伴わなければ意味がないので、すぐに出来るとは考えていない。そういう方向性を皆さんに案としてお示しできればと思い発言した。

（南部座長）次に共生ビジョンに記載するキーワードについて議論したいが、同時にキャッチコピー的なものも含めて掲載したいと思う。各委員からは、キーワードを出していただき、会場にあるスクリーンに表示しながら進めたいと思う。安心・安全、活性化、賑わいというアイデアを前回にも頂いているが、これらを基に膨らませていただきたい。

色々のご意見を頂いた中で、つながり、協力という言葉も使えるかなと思う。

（池田委員）立場が国際化ということなので、その視点から発言するが、函館は最初に海外に門戸を開いたという歴史から、国際と言う言葉が入ればいいなと思っている。また、過疎化が進んでいるということもあり、それを前向きに魅力として置き換えて発信できないかなと考えている。

(今泉委員) 厚沢部町では、素敵な過疎のまちづくり条例を制定している。過疎を逆手に取るという方法もある。

(南部座長) ここで皆さんで一つのキャッチフレーズを作るということではなく、頂いたフレーズを参考に今後まとめていきたいと思うので、この場では言っぱなしで構わない。自由に出して頂きたい。

(今泉委員) 安心・安全というワードのほかに、住み続ける、住み続けたいという言葉もキーワードになるのではないか。

(江田委員) 定住自立圏という新しい枠組みを作ろうとしているので、新しい街、圏域を創る、例えば新しいまちづくりへの挑戦、新しい何かに挑戦していく、そういうのもキーワードになるのではないか。

(疋田委員) 圏域が一緒にやっていくので、そこにはふれあいや絆という視点も必要と考える。

(南部座長) 今のご意見をまとめると2つの視点があると思う。一つは安全・安心をベースに住み続けるということ、もう一つは、新しいことを創っていく、今無いものを生み出していくということ。一つのフレーズにまとめるのは難しいかもしれないが、もう少し、挑戦などに代表されるポジティブなキーワードを出していただきたい。

(今泉委員) 例えば、100年後の未来を創るなど、それくらいのビジョンがあってもいい。

(南部座長) さらに意見がある場合については、フォローアップシートなどを利用して意見を寄せて頂きたい。それらを踏まえて事務局に取りまとめさせることし、再度、皆様にお諮りする。続いて、議題2について事務局から説明を求める。

(事務局) 資料に基づき説明

(南部座長) 説明のあった件について各委員より質問・意見をいただきたい。

(池田委員) 結びつきネットワークの部分、留学生受け入れについて、全ての市町に丸が付いているが、予算計上の無い町もある。これについて説明してほしい。

(事務局) 連携という点においては、全ての市町と合意されているものであるが、準備計画段階にあるために、予算計上されていない市町もある。

(南部座長) 確認だが、計画予算中、数字が記載されていないものについては、前向きに未定という認識でよいか？

(事務局) 市町別事業費欄の「－」については、現状、予算計上が無いということ。

(南部座長) 連携している市町において、事業費が現状「0」のところは、今後、取り組む可能性があるということによいか？

(事務局) 全てが同時ということにはならないが、休止していた事業を再開したり、今回の定住自立圏を契機として新たに取組もうとしている市町もある。

(松本委員) 人材育成の部分で、まずはやれることという観点で記載したと思うが、合同研修の実施により、各市町相互の情報交換が図られ、より結びつきを強くしていくという考え方でよろしいか？

(事務局) そのとおりと考える。

(松本委員) 広域医療関連の資料について、どの町の人がどの町の病院を利用しているかなど、実際の動態を示すデータがあれば、より戦略を立てやすくなり、交通ネットワーク部分の施策を考える上でも有用となると思う。そのようなデータは無いのか？過去にはあったと思うのだが。

(坂下委員) 檜山管内はエリアが小さいので、動態を示すデータは取りやすく、関係機関において、国保だけだと思いがデータはあると思う。

(豊島委員) 函館市の場合は、エリアも大きく、加入保険も多いのでなかなかそのようなデータは取りにくい状況にある。

(松本委員) 遠距離から通院する場合、1泊2日あるいは何万円の交通費がかかるケースもある。セカンドオピニオンを求めるパターンもあり、そのあたりが課題となっている。特に冬季は同じ町内の病院に通院する場合であっても深刻だ。

(南部座長) 今日の会議の目標は原案の確定ということだったが、今一度資料をご覧頂き、質問があればお願いしたい。

(本間委員) 安心・安全というのが一つのキーワードだが、防災という観点については、どう考えるか？

(南部座長) 防災については、現状、連携項目には含まれていないが、今後必要に応じ、協議していくこととなる。

(南部座長) 本日、頂いたご意見を踏まえ、必要な修正を加えたものを原案として確定させることでよろしいか？ (各委員から異議無しの声)  
それでは、この案を全市町でのパブリックコメントに付すこととしたい。以上をもって会議を終了する。

(15:00 終了)